



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2018.12) 平成30年度:33-34.

長期在宅療養中の重症心身障害児と親に対する訪問看護師の支援-半
構成面接を用いて-

広瀬 由加里, 結城 弥久

長期在宅療養中の重症心身障害児と親に対する 訪問看護師の支援—半構成面接を用いて—

広瀬由加里 結城弥久

(指導:板東利枝)

緒言

我が国の重症心身障害児(以下重症児とする)は増加してきており、家族の希望により地域生活を送る傾向が強くなっている¹⁾。児は、成長・発達の過程にあり、絶えず変化していく存在である²⁾ことや、児の成長に合わせて親の加齢も進むことから、必要とされる支援内容が変化することが予想される。先行研究では、訪問看護師に対する参加観察やインタビューを行い、学童期の重症児への看護実践の内容を明らかにしている。しかし、長期在宅療養中の重症児と親に対して訪問看護師が行う具体的な支援内容の変化を明らかにした研究は見当たらない。そのため、長期在宅療養中の重症児と親に対する訪問看護師の実践している具体的な支援を追究する。

研究方法

1. 研究デザイン:質的記述的研究
2. 調査期間:平成30年8月17日
3. 研究対象:北海道の中核都市の重症児の訪問看護を実施している訪問看護ステーションの、重症児の訪問看護師経験が3年以上、かつ重症児の訪問看護の経験が10件以上の訪問看護師。
4. 調査方法:面接は1人ずつ、対象者1人につき1回、所要時間は30分前後とし、半構成面接法で行い、許可を得てICレコーダーに録音した。
5. 調査内容:面接はインタビューガイド(①訪問時の重症児への身体的・心理的ケア、②訪問時の重症児の親への支援、③重症児の成長・発達に合わせた重症児への支援の工夫や変化、④重症児の成長・発達や親の加齢に伴う支援の工夫や変化)を基に行い、話の流れに応じて内容や順序を変更し、質問以外のことも対象者に話してもらった。
6. 分析方法:Berelson.Bの方法論を参考にし、内容分析³⁾を行った。録音データをもとに逐語録を作成し、訪問看護師の重症児と親への支援に関する意味内容を表す部分を記録単位として抽出した。次に意味内容の類似性に着目し、同一記録単位群を抽出した。同一記録単位群の同質性・異質性に基づいてカテゴリ化を行った。

7. 用語の定義

1)重症心身障害児:重度の肢体不自由と知的障害を重複しており(児童福祉法第7条)、大島分類⁴⁾1

～4を基準とする。

2)長期在宅療養:本研究では10年以上在宅で療養することを長期在宅療養と定義する。

8. 倫理的配慮

旭川医科大学倫理委員会の承認を受けて実施した(承認番号:18081)。対象者に研究の目的・方法を口頭及び書面で説明し、書面で同意を得た。

結果

1. 対象者の概要

研究対象者は50歳代と60歳代の女性2名であった。平均看護師経験年数は32.5年、平均訪問看護師経験年数は19年であった。対象者の概要を表1に示す。また、両名ともに現在までの重症児の訪問経験件数は10件以上であった。面接は各1回ずつで、所要時間は平均49分であった。

表1:対象者の概要

	性別	年齢	看護師 経験年数	訪問看護師 経験年数
A	女性	50代	28年	13年
B	女性	60代	37年	25年

2. 分析結果

逐語録から98個の記録単位、17個の同一記録単位群、6個のカテゴリを抽出した(表2)。以下、カテゴリを【】、記録単位を〈〉で示す。

表2:訪問看護師の支援

n=98

カテゴリ	記録単位数 (%)
【子供の成長発達に合わせ、その子の持っている力を引き出すことができるように専門的ケアを行う】	24(24.5%)
【在宅ケアが継続できるよう、実践的で専門的な助言や提案を行う】	18(18.4%)
【母親が相談しやすい環境を整え、子供を通して心身の変化をとらえることができるように関わる】	17(17.3%)
【子供の様子や身体サインを見ながら、成長発達に合わせた心身ケアを行う】	15(15.3%)
【将来の家族の加齢や健康状態の変化を見据え、社会資源や医療機関とつなげる】	14(14.3%)
【子供を家族の一員として受け入れ、家族として成長していけるように支援する】	10(10.2%)

1)【子供の成長発達に合わせ、その子の持っている力を引き出すことができるように専門的ケアを行う】

このカテゴリは24個の記録単位から生成され、3個の同一記録単位群から構成された。

2)【在宅ケアが継続できるよう、実践的で専門的な助言や提案を行う】

このカテゴリは18個の記録単位から生成され、2

個の同一記録単位群から構成された。

3)【母親が相談しやすい環境を整え、子供を通して心身の変化をとらえることができるように関わる】

このカテゴリは17個の記録単位から生成され、2個の同一記録単位群から構成された。

4)【子供の様子や身体サインを見ながら、成長発達に合わせた心身ケアを行う】

このカテゴリは15個の記録単位から生成され、3個の同一記録単位群から構成された。

5)【将来の家族の加齢や健康状態の変化を見据え、社会資源や医療機関とつなげる】

このカテゴリは14個の記録単位から生成され、3個の同一記録単位群から構成された。

6)【子供を家族の一員として受け入れ、家族として成長していけるように支援する】

このカテゴリは10個の記録単位から生成され、4個の同一記録単位群から構成された。

考察

1. 重症児や親への支援内容と、子どもの発達成長に合わせた支援の変化

母親への支援に対する記録単位が重症児に対する支援の次に多かったことから、重症児が在宅療養を継続していくためには母親が重要なキーパーソンであると考えることができる。また、記録単位は児と母親合わせて75.5%であったことから、訪問看護師は重症児やその母親に対するケアに重点を置いて関わっていると考えることができる。訪問看護師が直接的に心身へのケアを行うだけでなく、〈お母さんに無理にどうしたのって聞かない〉、〈日ごろのお子さんの様子から、お母さんのケア状況を想像する〉など、母親の様子を観察し、生活背景を予測することも行っている。家族に声を掛けるべきかを見極め、何も言わず見守るという判断を行う看護師の新たな実践⁵⁾ともあるように、訪問看護師が今の家族の状況を正しくアセスメントし、家族の介護力に合わせたケアの提案を行い、家族の判断を積み重ねていくことも看護師の役割の1つである。それは日ごろから重症児やその家族との関わりが密接である訪問看護師が重要な役割を果たしていると考えられる。

重症児にケアを行う際、訪問看護師は〈重症児の子供たちは、最初から持っている機能を持っていないので、それを成長に合わせて機能を引き出すことが重要だと思っている〉、〈将来を見据えて順序よく支援していくことが必要だと思う〉など児の成長発達を常に考えながらケアを行っていると考えることができる。母親に対しても子の適切な理解や受け入れを促すことで養育者の子どもの成長ペースに合わせた関わりを行うことができることから、在宅療養を無理なく

継続することができる。このことから、訪問看護師は、成長発達に合わせたケアを大切にしていると考えられる。

2. ショートステイやホームヘルパーなどの社会資源活用の必要性和訪問看護師の関わり

長期的にわたり家族で在宅ケアを行うため、家族への心身への負担がかかりやすいことが考えられる。また、子供の成長発達に合わせて両親の加齢や家族の健康状態の変化なども考えられる。そのため、児がまだ幼く、両親も若年である内から〈高齢になったとき困らないように、ストレスを感じないように、ショートステイを定期的に使うことや日数の設定の支援を行う〉ことが必要であると考えられる。サービス施設等と訪問看護師が直接的にかかわりを持つことは少ないが、重症児と関わる機会の多い訪問看護師が場や支援をつなぎ、重症児と家族は変化の中でも生活できるよう支援を検討する必要がある⁶⁾と考える。また、訪問看護師は家での母親の様子や児の状態を常に観察し把握しやすい環境にあるため、どのような支援がその家族にとって必要とされているかを考えることができる。そのため、現在だけではなく【将来の家族の加齢や健康状態の変化を見据え、社会資源や医療機関とつなげる】ことも訪問看護師の重要な役割であると考えられることができる。

研究の限界

本研究では、同一訪問看護ステーションの2名の看護師が対象であった。そのため対象者の考えや意見が偏ってしまった可能性もあり、この結果を普遍化できないと考える。よって、対象を広げて研究を継続していく必要があると考える。

謝辞

本研究にあたりご理解、ご協力いただきました訪問看護ステーションの看護師の皆様、並びにご指導頂いた先生方に心より感謝申し上げます。

引用文献

- (1)駒ヶ峰嶺子(2016):重症心身障害児(者)の母親における介護負担軽減の必要性、秋田看護福祉大学総合研究所 研究所報,第11号,p42.
- (2)岡田洋子,荳津智子,井上由紀子,草薙美穂(2010):小児看護学1第2版 小児と家族への系統的アプローチ,p24,医歯薬出版株式会社.
- (3)舟島なをみ(2007):質的研究への挑戦,第2版,40-81,医学書院.
- (4)岡田喜篤(編)(2015):重症心身障害療育マニュアル,新版,p10-13,医歯薬出版社.
- (5)鈴木健太(2017):在宅維持期において重度障害のある学童を訪問する看護師の実践,日本在宅看護学会誌,6巻1号.
- (6)杉山友理,中村伸枝,佐藤奈保(2014):重症心身障害児とその家族に対する訪問看護師の支援に関する文献検討,日本小児看護学会誌,第23号第1号.